



市長の和田裕行です。これまで市議会やYouTubeなどを通じて市政運営の発信に努めてまいりましたが、ひこね市文化プラザのあり方のように誤解や憶測が広がったり、十分に伝わっていない新しい取り組みなども多々ありますので、今月号より私自身の言葉で正確な情報・事実をお伝えしたいと思います。

私は市長就任以来、財政再建を第一に取り組んでまいりました。議会でも述べておりますが、私の就任時点で市の貯金はほぼゼロになることが決まっており、さらに予定されていた事業を中止や延伸しないと財政破綻してしまう状況にありました。このように投資的的事业ができない中、これまでの2年半は①無駄を徹底的に排除し、自ら稼ぐために②持っている資産やポテンシャルを有効に活用し、さらに③民間の力を活用して市を活性化することに注力してまいりました。例え

ば、①荒神山トンネル計画の中止や中央図書館計画その他の公共事業延伸に加え、年間約25億円の事業を見直し、②楽観的であった彦根城世界遺産登録を強力に推進し、ひこにゃんは大躍進、映画の口ケも積極的に誘致、さらに③映画・アニメの専門職大学やJリーグの誘致などを進めているところです。

一番大きな事業では、就任時に新ゴミ処理施設は焼却炉方式が推進されていましたが、大阪・関西万博同様に当初の倍以上の建設額が想定され、そのままでは完全に市の財政は破綻していたことでしょう。ただ、すでに※好気性発酵乾燥方式の導入を検討しており、その建設費・維持費削減のため東奔西走しております。ちなみに「現在より分別が増える」というのは全くのデマで、「焼却炉建設＝破綻」が事実です。

このように皆様をご存じないことも多くあると思いますので、広報ひこねでも十分に情報を公開して、市民の皆様安心して暮らしていただける彦根を実現してまいりますので、ご理解の程よろしくお願いいたします。

和田 裕行

※好気性発酵乾燥方式 (トンネルコンポスト方式) = 微生物が生ごみを発酵分解する熱によりごみを乾燥させるため、ごみを燃やさず、CO2も削減できる

彦根城は、知れば知るほど、オモシロイ。

未来に残そう みんなのお城 -vol.15-

彦根城を世界遺産に



遠くへ行きたい

問 彦根城世界遺産登録推進室
☎ 26-5833 FAX 26-5899

彦根城の世界遺産に登録するのは中堀より内側。その外側には町人が住む城下町が広がっていました。城下町に住んでいた武士には、地域の平和を守るため、「お城から3里(約12キロメートル)以上遠くに、許可なく外出してはいけない」などの厳しいルールがありました。このようなルールがあったからこそ、地域内の平和が保たれていたのです。



▲ハクチョウ隊長

